

GRASP-Japan カフジ活動報告

2009年12月19日 山極寿一

事業計画

「カフジ・ビエガ国立公園における地元住民による類人猿保全活動と環境教育への援助」

カフジ・ビエガ国立公園では1993年に地元住民によるNGOポレポレ基金が設立されて以来、われわれ日本人研究者とコンゴ人研究者の協力の下にゴリラやチンパンジーと人との共存を目指した活動が続けられてきた。活動の主体は、住民自身の手によるゴリラとチンパンジーの遊動と類人猿の食物となる果実のフェノロジーのモニタリング、および就学前の幼児から大人までを対象とした環境教育学級の経営である。地元住民が類人猿の生態調査に参加することで類人猿への関心を高め、それを地元の財産として管理する。そして、類人猿の動向や環境の変化を環境教育学級で毎月報告して、他地域の類人猿や他の動物などと比較することによって地元の自然の価値を再認識することを目指している。すでに、3つの環境教育学級が作られ、地元の多くの子どもたちや親たちが参加して活発に活動している。

本事業はこれらの活動を支援するため、ビデオ撮影機とプロジェクターを購入し、住民自らが撮影した映像を作成するとともに、環境学級に図書を完備して類人猿やアフリカの自然や人々に関する知識を高めることを目的とする。



環境教育学級で学ぶ小学生たち



国際ゴリラ年を学習する幼児たち

2009年の活動

2008年から繰り越された1571USドルの資金は、環境教育活動に用いる黒板や筆記用具、2008年に購入したプロジェクターによってビデオを上映するための発電機の燃料費に用いた。ビデオは日本のテレビ局が撮影したフィルムや現地の担当者が国立公園内で撮影したフィルムが含まれており、今年は国際ゴリラ年ということで各国からさまざまなイベントを撮影したビデオが寄せられた。現在、環境教育学級は幼年部3クラス、小学部6クラス、中学部1クラスで運営している。それぞれの学年に適した教材の開発を試みており、絵本や写真などを用いた教育も試みられている。さらに図書の充実をはかりたいと思っている。



ビデオ上映会でゴリラの生態を学ぶ中学生たち

カフジ収支報告書

USドル会計(単位 \$)

#	日付	項目	入金	支出
		前年度繰越金	1,571	
1	2009. 4. 18	ガソリン代		150
2	2009. 4. 20	黒板代		760
3	2009. 4. 26	文房具代		661
		合計	1,571	1,571



エコツーリズムで訪問客に人気が高いチマヌーカ集団